

2 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要

○2009/10年度の大豆需給（予測）のポイント

大豆の供給面では、米国においては作付面積が過去最高を記録し、前年度低下した単収の回復が見込まれる。また南米では天候が平年並に推移すれば単収が回復する見込みであり、世界の生産量は増加が見込まれている。需要面では、EU等で減少するものの、引き続き中国等で搾油用需要を中心に拡大することから、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから、期末在庫率は前年度を上回ると見込まれる。

【生産量】

生産量は、中国で減少するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国や南米のアルゼンチン、ブラジル、パラグアイで増加することから、世界全体では前年度より31.5百万トン増加（14.9%）し、242.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.7百万トン下方修正されており、国別には米国、中国が下方修正された。

【消費量】

消費量は、搾油用需要を中心にEU等で減少するものの、アルゼンチン、中国等で増加が見込まれることから、世界全体では前年度より9.7百万トン増加（4.4%）し、231.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン下方修正されており、国別にはEU、米国が下方修正され、インドが上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より1.7百万トン増加（2.2%）し、76.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では前年度干ばつで減産したアルゼンチン、パラグアイで輸出量の増加が見込まれ、需要が集中していたブラジルで輸出量の減少が見込まれる。一方、輸入国では、貿易量の約5割を輸入する中国の輸入量が減少するものの、その他のアジア諸国を中心に輸入量の増加が見込まれる。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正されており、国別にはアルゼンチンの輸出量が上方修正され、米国の輸出量とEUの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より9.3百万トン増加（22.7%）し、50.3百万トンとなり、期末在庫率は21.8%（3.3ポイント増）と前年度を上回る見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.5百万トン下方修正されており、国別には米国、アルゼンチン、ブラジル、中国で下方修正され、EUで上方修正された。

表－1 世界の大豆需給

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	221.2	210.6	242.1	▲ 1.7	14.9
米国	72.9	80.5	87.1	▲ 1.7	8.1
ブラジル	61.0	57.0	60.0	-	5.3
アルゼンチン	46.2	32.0	51.0	-	59.4
中国	14.0	16.0	15.4	▲ 0.2	▲ 3.8
インド	9.5	9.1	10.0	-	9.9
パラグアイ	6.9	3.8	5.8	-	51.3
カナダ	2.7	3.3	3.7	-	10.6
消費量	229.8	221.6	231.3	▲ 0.6	4.4
うち搾油用	201.9	192.8	200.7	▲ 0.6	4.1
中国	49.8	51.3	53.5	-	4.1
米国	51.6	49.1	50.2	▲ 0.3	2.2
アルゼンチン	36.2	34.2	36.7	-	7.5
ブラジル	35.1	34.8	34.6	-	▲ 0.4
EU-27	16.1	13.7	13.2	▲ 0.5	▲ 3.6
インド	9.4	8.8	10.1	0.1	14.4
日本	4.2	3.9	4.1	-	6.8
貿易量	79.6	74.3	76.0	0.1	2.2
(輸出)					
米国	31.5	34.4	34.4	▲ 0.3	0.0
ブラジル	25.4	27.8	24.0	-	▲ 13.7
アルゼンチン	13.8	6.0	9.7	0.3	62.6
パラグアイ	5.4	2.3	4.0	-	72.6
カナダ	1.8	2.0	2.0	0.0	0.0
(輸入)					
中国	37.8	39.1	38.1	-	▲ 2.6
EU-27	15.1	12.8	12.4	▲ 0.5	▲ 3.1
日本	4.0	3.5	4.0	-	14.5
メキシコ	3.6	3.1	3.5	-	12.6
台湾	2.1	1.8	2.3	-	23.0
タイ	1.8	1.5	1.7	-	13.7
インドネシア	1.1	1.2	1.6	-	33.3
期末在庫量	52.9	41.0	50.3	▲ 1.5	22.7
アルゼンチン	21.8	15.2	20.3	▲ 0.3	33.3
ブラジル	18.9	13.4	14.9	▲ 0.3	11.3
中国	4.2	7.5	7.1	▲ 0.2	▲ 6.0
米国	5.6	3.0	5.7	▲ 1.1	90.6
EU-27	0.8	0.5	0.6	0.1	16.1
期末在庫率	23.0%	18.5%	21.8%	▲ 0.6	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国 【需給状況】

米国の生産量は、需給のひっ迫見込みから農家の作付け意欲が増加し、作付面積が過去最高を記録した。また、天候が良好に推移したことから、前年度低下した単収の回復が見込まれ、前年度より6.6百万トン増加（8.1%）し、87.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、畜産向けの需要の回復による大豆粕需要の若干の増加や、搾油用需要の増加が見込まれることから、前年度より1.1百万トン増加（2.2%）し、50.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量が増加するものの、アルゼンチンで輸出量が増加すると見込まれることから、前年度並みの34.4百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.7百万トン増加（90.7%）し、5.7百万トンとなり、期末在庫率は6.8%（3.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、最初の現地調査に基づく単収の下方修正で生産量が1.7百万トン、消費量と輸出量がそれぞれ0.3百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が1.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

大豆の主要18州の作付けは、雨がちな天候の影響でコーンベルト東側の主産地であるイリノイ州等で作付けが遅れたものの、7月初めにほぼ終了した。着さや期を迎えた8月現在でも生育が平年より1～2週間遅れており、着さや率は85%で、前年度より1ポイント下回り、過去5年の平均に比べ7ポイント進捗が遅れている。

作柄については、生育に適した天候で推移していることから、優良～良までの合計は69%と、前年度同時期の61%や前年度最終の57%を共に上回っている。

なお、生育遅れによる収穫前の早霜の懸念があり、天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース73.5%）
世界の生産量シェア 1位（2009/10年度 36.0%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 45.3%）

表－2 米国の大豆需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.9	80.5	87.1	▲ 1.7	8.1
消費量	51.6	49.1	50.2	▲ 0.3	2.2
うち搾油用	49.1	45.2	45.5	▲ 0.3	0.6
輸出量	31.5	34.4	34.4	▲ 0.3	0.0
輸入量	0.3	0.4	0.3	-	▲ 34.1
期末在庫量	5.6	3.0	5.7	▲ 1.1	90.7
期末在庫率	6.7%	3.6%	6.8%	▲ 1.2	3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.96	30.21	31.07	0.09	2.8
単収(t/ha)	2.81	2.67	2.80	▲ 0.06	4.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

○ 米国大豆の生育進捗状況（8月23日現在）

[生育進捗状況(2009/10年度大豆)]

開花率 97%（平年差：▲2p、前年差：0p）

着さや率 85%（平年差：▲7p、前年差：▲1p）

[作柄]

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大豆	2009/10	16	53	23	6	2
	前年度同時期	14	47	27	9	3
	前年度最終	12	45	29	10	4

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

イ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、世界的な大豆需要の増加から、国際価格が高水準であることや、肥料価格下落の影響や、とうもろこしや綿花からの作付け転換により収穫面積の増加が見込まれることから、前年度より3.0百万トン増加(5.3%)し、60.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用の減少に伴い前年度より0.2百万トン減少(▲0.4%)し、34.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、アルゼンチンの輸出量の増加に伴い前年度より3.8百万トン減少(▲13.7%)し、24.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.5百万トン増加(11.4%)し、14.9百万トンとなり期末在庫率も25.4%(4.0ポイント増)と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の輸出量が0.3百万トン上方修正された。この結果、2009/10年度の期首在庫量が下方修正され、期末在庫量が0.3百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度のブラジルの大豆は、5月下旬頃までに概ね収穫が終了した。なお、2009/10年度の大豆の作付けは、例年10月中旬頃から開始される。

ウ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、前年度に上昇した単収が低下するものの、主産地である東部のオンタリオ州とケベック州で収穫面積が増加する見込みであることから、前年度より0.4百万トン増加(10.6%)し、3.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用を中心に増加することから、前年度より0.2百万トン増加(13.4%)し、1.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並みの2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.1百万トン増加(83.3%)し、0.3百万トンとなり、期末在庫率は7.1%(3.0ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が0.1百万トン下方修正され、輸出量がわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダの大豆は現在、着さや期に入っている。一部の地域では低温が続いたことで生育が遅れが生じている。現在のところ概ね順調に生育しているが、今後の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2008年数量ベース 15.3%)
世界の生産量シェア 2位 (2009/10年度 24.8%)
輸出量シェア 2位 (2009/10年度 31.6%)

表-3 ブラジルの大豆需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	61.0	57.0	60.0 (61.6)	-	5.3
消費量	35.1	34.8	34.6 (…)	-	▲0.4
うち搾油用	32.1	31.8	31.6 (…)	-	▲0.6
輸出量	25.4	27.8	24.0 (…)	-	▲13.7
輸入量	0.2	0.1	0.2 (…)	-	200.0
期末在庫量	18.9	13.4	14.9 (21.8)	▲0.3	11.4
期末在庫率	31.3%	21.4%	25.4% (…)	▲0.5	4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	21.30	21.70	22.00 (22.15)	-	1.4
単収(t/ha)	2.86	2.63	2.73 (2.78)	-	3.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly (July 17, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース 8.8%)
世界の生産量シェア 7位 (2009/10年度 1.5%)
輸出量シェア 5位 (2009/10年度 2.6%)

表-4 カナダの大豆需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.7	3.3	3.7 (3.6)	-	10.6
消費量	1.8	1.7	1.9 (1.8)	▲0.1	13.4
うち搾油用	1.4	1.3	1.5 (…)	-	16.6
輸出量	1.8	2.0	2.0 (2.0)	0.0	0.0
輸入量	0.3	0.4	0.4 (0.3)	-	0.0
期末在庫量	0.2	0.2	0.3 (0.2)	-	83.3
期末在庫率	4.2%	4.1%	7.1% (5.3%)	0.0	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.17	1.21	1.40 (1.39)	-	15.7
単収(t/ha)	2.31	2.73	2.61 (2.56)	-	▲4.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grains and Oilseeds (August 7, 2009)」

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、単収が増加するものの、収穫面積がとうもろこしにシフトして減少することから、前年度より0.6百万トン減少（▲3.8%）し、15.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加等から前年度より2.2百万トン増加（4.1%）し、53.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は国家備蓄政策による影響で、国内大豆に比べ輸入大豆の割安感から輸入が前年度は増加したが、在庫が積み増しされたこと等から、1.0百万トン減少（▲2.6%）し、38.1百万トンとなる見込みである。

一方、輸出量は、前年度並みの0.5百万トンとなる見込みである。なお、貿易量は世界の約5割を占めている。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン減少（▲6.0%）し、7.1百万トンとなり、期末在庫率も13.1%（1.4ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの変更は、単収の下方修正で生産量、期末在庫量がそれぞれ0.2百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国東北地域の黒龍江省では、5月は極端に降水量が少なかったが、6月に長雨の影響を受け、低温と日照不足により、一部の地域では生育が遅れた。また、7月下旬頃から8月中頃まで乾燥天候となったことから、収穫期の単収への影響が懸念される。例年9月には収穫が始まることから、今後の天候に注視する必要。

【貿易情報等】

2007年12月に増値税の輸出還付を取消し、2008年1月から輸出税を課していたが、残りの黄大豆と種子用大豆の輸出税についても2009年7月1日に撤廃された。

なお、中国政府は2009年の作付けを推進させるため、725万トンの備蓄をしていた。9月頃には新穀の収穫が始まることから、在庫スペースの確保のため、7月下旬から8月中旬までに約250万トンの競売を行ったが、最低入札価格が現物市場の価格よりも上回るため、約2万トンの落札に留まっている。

我が国の輸入先国シェア4位（2008年数量ベース 2.3%）
世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 6.4%）
輸入量シェア 1位（2009/10年度 50.2%）

表－5 中国の大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	16.0	15.4 (15.7)	▲ 0.2	▲ 3.8
消費量	49.8	51.3	53.5 (…)	-	4.1
うち搾油用	39.5	41.0	43.3 (…)	-	5.4
輸 出 量	0.5	0.5	0.5 (…)	-	0.0
輸 入 量	37.8	39.1	38.1 (…)	-	▲ 2.6
期末在庫量	4.3	7.5	7.1 (…)	▲ 0.2	▲ 6.0
期末在庫率	8.5%	14.5%	13.1% (…)	▲ 0.4	▲ 1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.75	9.50	9.10 (9.12)	-	▲ 4.2
単収(t/ha)	1.60	1.68	1.69 (1.72)	▲ 0.02	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (July 17, 2009)」

オ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、前年度は干ばつの影響で生産量が大幅な減少となったが、前年度より19.0百万トン増加（59.4%）し、51.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要を中心に増加することから、前年度より2.5百万トン増加（7.5%）し、36.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復に伴い、3.7百万トン増加（62.5%）し、9.7百万トンとなる見込み。

この結果、期末在庫量は前年度より5.1百万トン増加（33.3%）し、20.3百万トンとなり、期末在庫率は43.7%（5.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの変更は、輸出量が0.3百万トン上方修正され、期末在庫量が0.3百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度のアルゼンチンの大豆の収穫は6月初旬までに概ね終了した。なお、2009/10年度の大豆の作付けは、例年11月頃から開始される。

【貿易情報】

大豆輸出税を中心とした政府の農業政策に対し、農家は2008年10月及び2009年2月にストライキを実施。さらに3月にも大豆相場の下落と干ばつの被害を受けて、大豆の輸出税の現行35%からの引き下げを求め、穀物の売却を拒否するストライキを行った。

なお、アルゼンチンの上院は8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、依然として政府と農家で対立が続いている。

（世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 21.1%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 12.8%））

表-6 アルゼンチンの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	46.2	32.0	51.0 (52.0)	-	59.4	
消費量	36.2	34.2	36.7 (…)	-	7.5	
うち搾油用	34.6	32.8	35.1 (…)	-	7.0	
輸 出 量	13.8	6.0	9.7 (…)	0.3	62.5	
輸 入 量	3.0	1.6	0.5 (…)	-	▲ 68.8	
期末在庫量	21.8	15.2	20.3 (25.3)	▲ 0.3	33.3	
期末在庫率	43.5%	38.0%	43.7% (…)	▲ 0.9	5.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.37	16.00	18.00 (18.80)	-	12.5	
単収(t/ha)	2.82	2.00	2.83 (2.77)	-	41.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (July 17, 2009)」